

税について

遠軽町立遠軽中学校 二年 青木 小夏

二〇十九年に消費税が八パーセントから十パーセントに変わった。この変化に対して思ったことは「なぜ？」や「そもそも税ってどんな場面で使われているのだろう」などの疑問だった。

消費税が引き上げられた理由は、日本で問題となっている少子高齢化が急速に進んでしまっていることだ。働き手が少なくなると、社会保障費を負担する一人当たりの量が自然と大きくなる。このまま少子高齢化が進むと二〇〇〇年の頃は、三・六人で負担していたのが二〇五〇年の頃には、一・三人とほぼ一人で負担することになる。このことから、このまま少子高齢化が進んでいくと、さらに、消費税が高くなると思った。

税は、社会保障費以外にも使われている。例えば、教育費や医療費などで国民が健康で豊かな生活を送れるよう支えてくれている。きつと納税する制度は、ずっとなくならず続くだろう。今の高齢者も働いていた頃は、税を払っていただろうし、今の働き手も高齢者になって税に助けられると思うからだ。

もし、税がなかったらどうなるのだろう。税がなかったら道が汚くなったり、救急車を呼ぶのにお金がかかったりといろいろな不便がでてくるだろう。逆に、物を買う時に税金を払うこともしなくてもいいし、給料から税を引かれずに済むといういいこともある。同じように税があっても、メリットとデメリットがあると思うが、私は、税があった方がいいと思う。なぜなら将来、自分のお金がなくなってピンチになった時に助けてくれるのが税金だからだ。本当に自分が困った時に助けてくれる存在（税金）があるだけで、安心できるからだ。安心することができなければ、人は、不安になつてなにも挑戦しなくなる。挑戦しなくなればなにも変わらないし、発展もしない。だから国民に安心して健康に過ごしてもらえるように納税する制度をつくったんだなど思った。

私は、今まで税を払うことに対して「めんどくさい」や「払ってもいいことないじゃん」と抵抗感があつたが、税のゆくえを知ってすっかり払おうという気持ちになつた。

私達が何気に払っている税が、人を助けられていると思うと抵抗感なんてない。だから、私は、税はあつた方がいいと思つた。私達が知らないだけで税が安心して過ごせるように支えてくれている。これからも税を払う機会が増えるかもしれないけど、人のために払おうと思つた。